



武家嚴制錄

二

田

73
6534
2



世に世承りて

右に右利に礼を奉るに似せ

一 清江舟中自序

余一

一 清江舟中自序
 一行の序を記すに先づ舟中
 多き事ありて之を記す
 一 舟中自序
 舟中自序の序を記すに先づ舟中
 多き事ありて之を記す
 一 舟中自序
 舟中自序の序を記すに先づ舟中
 多き事ありて之を記す
 一 舟中自序
 舟中自序の序を記すに先づ舟中
 多き事ありて之を記す
 一 舟中自序
 舟中自序の序を記すに先づ舟中
 多き事ありて之を記す
 一 舟中自序
 舟中自序の序を記すに先づ舟中
 多き事ありて之を記す

一 舟中自序

舟中自序

一 舟中自序
 舟中自序の序を記すに先づ舟中
 多き事ありて之を記す
 一 舟中自序
 舟中自序の序を記すに先づ舟中
 多き事ありて之を記す
 一 舟中自序
 舟中自序の序を記すに先づ舟中
 多き事ありて之を記す
 一 舟中自序
 舟中自序の序を記すに先づ舟中
 多き事ありて之を記す
 一 舟中自序
 舟中自序の序を記すに先づ舟中
 多き事ありて之を記す
 一 舟中自序
 舟中自序の序を記すに先づ舟中
 多き事ありて之を記す
 一 舟中自序
 舟中自序の序を記すに先づ舟中
 多き事ありて之を記す

舟中自序

一 爲江村信子事馬... 由... 信子

附名江村馬... 馬... 信子

一 爲... 信子... 爲... 信子

一 爲... 信子... 爲... 信子

一 爲... 信子... 爲... 信子

慶長十一年六月十八日
信子

一 爲... 信子

信子

一 爲... 信子... 爲... 信子

一 爲... 信子... 爲... 信子

一 爲... 信子... 爲... 信子

一 爲... 信子... 爲... 信子

一 海軍中隊
 一 海軍中隊の時高をいふ事
 一 目付の如く書かれたる事
 一 馬の隊を別からしめる事
 一 騎隊の中に入ること
 一 細い事
 一 海軍中隊
 一 海軍中隊の時高をいふ事
 一 海軍中隊の時高をいふ事

一 於町を馬の口と流るる事
 一 少少馬の口と流るる事
 一 山の方へ行く事
 一 海軍中隊の時高をいふ事
 一 大卒の如く書かれたる事
 一 海軍中隊の時高をいふ事
 一 海軍中隊の時高をいふ事
 一 海軍中隊の時高をいふ事
 一 海軍中隊の時高をいふ事

一 日光寺成の時高をいふ事
 一 寛永十九年 信守中 海軍中

条

- 一 今度見光借年し時宿及申事
- 一 龍龜申 宣統福 別無る申定のこゝろ申事
- 一 申事し并町申事有る共其所し在合共し可
及沙法様より申事
- 一 今度借年申事人返り我停止しる自他申事
於江戸及沙法借年科より申事
人申事申事裁許事
- 一 若座別下馬言以後貸方より記し并書之外
諸般より申事
- 一 月身より申事并書以迄申事人より及沙法より
出河様より申事 法及より遠方より申事

附糧藉者より係事申事

- 一 小倉法に在方より申事 但山坂より小倉法と山入
付て申事
- 一 徳乃具入交より申事
- 一 押賞押賞停止し并盤より伐採竹申事
附他毛 場子より放至馬事
- 一 若座より通科し控申事 自他月身より申事
若座法より人身通申事 於今月控より申事
以外裁下知候事

宣永十九年 四月十日

御黒印

阿部對馬守
朽木守中補
牧野佐清守
久世大和守
内田信清守
藤原持清守
中根三右衛門守
小出鐵中守
是田清房守
四月廿日
柳生傳系守
内友志守

永井日向守

寛永十九年四月十日

一 同封書中津條目

条々

一 七度尚書之役百奉古井古物取松平伊豆守
合々之方在信々之之信々守事
一 於此九城中 必云何信々守令出守尚書
々 某年大書取書池番取小性但取々在信々
斗々石依何事信合々刻不立私々守守多
分封事
附取々 中丸見臣守事

一 於城下河原に兵糧有る一切を出奉
右條に可おしむるもの

寛永十九年四月十日

小室兼右進士

一同

条々

一 此度留りたる百奉、古井大炊頭松平伊豆守
合し、右條に上て法外奉事
一 於城中に何れも、後法外奉事、中法外奉事
ふま、何れも法外奉事、別奉事、下法外奉事、
付奉事

一 留り申す、此迄、中法外奉事、百一、付奉

於留りたる大炊頭伊豆守、理々 社奉行深田
て及ゆ奉事

一 大炊頭奉り、命を自身に、社奉行伊豆守、理々
るん奉り、お法外奉事、

一 自然用方を、社奉行伊豆守、理々、
社奉行奉事

右條に可おしむるもの

寛永十九年四月十日

戸田左衛門
松平丹波守
中法外奉事
社奉行伊豆守

一 因取

系

一 今度御中申付、貴七人お合々、万事入信
下付事

一 自他火事令出、事々二、九河等、因能久、紙書
し、通て申之、因取、竹代代、お村、奥方、
去、書取、百達、出之、或、城、中、有之、事
事、下付事

一 喧嘩、口論、割禁、之、之、能、之、何、極、之、因、有
之、共、社、系、お、係、之、之、及、何、法、若、遠、者、之、事、有、之、
之、偏、取、水、双、方、之、津、岸、之、於、殿、中、之、出、事、其
之、の、者、之、之、之、お、申、之、百、一、之、為、務、之、其、科、之、至

能事

一 門、安、入、之、長、之、事、就、七、人、之、事、之、名、之、通、之、能、令
大、地、取、伊、豆、之、者、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
附、事、方、之、人、有、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
付、事

一 自他、何、極、之、事、之、出、事、之、事、之、之、之、之、之、之、之、
右、系、之、一、お、守、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
寛、永、九、年、之、月、十、日

牧野、因、取、之、之、
酒井、和、家、之、之、
松浦、因、能、之、之、
高、橋、備、前、之、之、

筒井内務より
招平 庄屋より
永井 小左衛門より

一 固形

條々

- 一 今度留中々民部事大體既伊豆中五合之
乃亦何極々民部有之 丁何人爲事
- 一 喧嘩口端之亦不事何事 汝有之云 双方
押之 社系お係之 乃何事
- 一 自法於城中 喧嘩口端 大事 汝有之云 此出
汝者 面々今度定之 乃何事 近お鐵 有人云
此是云々

- 一 戸田左門 招平お係之 亦多能也 昔お法 誠然正并
面々 亦大威火 亦亦云々 乃何事 乃何事 乃何事
何人 亦爲可 乃何事

右条々 乃何事 乃何事

寛永五年 乃何事

一 固形

條々

- 一 今度留中々民部事 大井右衛門 招平 伊豆中
合々 乃何事 乃何事 乃何事
- 一 於寛永城中 招平 乃何事 乃何事 乃何事
法々 亦亦云々 乃何事 乃何事 乃何事
乃何事 乃何事

一 皇朝山城之及之西九殿中書亦もつり
見皇年

一 於城印何為之氣理有之一切之出車

一 大書以組中之及之殿中書亦もつり
定通車

右之系之了守よの之

寛永十九年四月十三日

石川之殿印よの

松平之殿印よの

大書以組中

一 皇朝山城之及之西九殿中書亦もつり
見皇年

衣家藏制録卷四

日光御成沙条月下

五年日光御成信在沙条月

同信在沙条月知系

同沙条月知系

同沙

同沙

五年日光御成信在沙条月知系之安二年同也

同信在沙条月知系之書之同也

同信在沙条月知系

同信在沙条月知系

同時信在沙条月知系

同日

同日

同日

同日

同日

同日

同日

同日

同日

我家藏制錄卷四

日光清成沙条同下

一 供在中沙条同

条々

一 今度日光供在中沙条同

一 於房中自施檀造口痛之別意也如右定之番

切斗之町中其町中有人百之可及

沙条同下

一 今度供在中人進之我令停止之幸自施中旨

有之今於江戸下及沙条同下科之ものあり

別之房中行不中沙条同下

一 忌座之別馬よりたつて後沙条同下

漢書云々
一 月付之
一 〇〇〇〇事

附 粮 藉 者 依 不 可 事

一 小 荷 姑 右 方 事 一 但 山 坂 事

一 法 道 兵 入 交 之 事

一 押 買 押 買 停 止 之 事 一 採 採 事

一 附 他 毛 之 場 事 一 右 之 事 一 中 之 事

のうまのう 終令用持て乃曲事以不另裁中知
收考之

一 安 元 年 四 月 〇
御 馬 印

一 御 下 知 條 々

一 御 殿 中 之 事 一 御 下 知 事

一 御 下 知 事 一 御 下 知 事

可任長事

一 河泊所、外、西、北、南、在、之、面、一、切、之、地、を、不、
在、之、と、待、最、長、に、施、普、後、事

一 於、河、泊、所、城、不、出、事、に、帝、右、備、之、後、人、を、其、後、
之、考、と、中、計、一、一、段、然、四、月、付、北、書、之、事、を、公、一、段、
長、事、事

一 於、河、泊、所、市、に、四、月、付、北、書、之、事、を、公、一、段、之、事、
於、日、光、山、為、火、事、出、事、時、河、泊、所、長、官、と、不、
取、人、河、泊、所、に、中、計、一、切、之、事、を、高、不、有、事、
一、在、河、泊、所、知、事

一 河、泊、所、に、松、平、在、事、を、又、右、田、備、中、に、公、一、段、之、事、
河、泊、所、に、東、方、火、事、出、事、時、河、泊、所、長、官、に、捕、

秋、田、河、泊、所、に、火、と、消、一、一、回、に、方、を、出、事、に、
水、は、消、後、に、秋、元、越、中、に、出、向、火、と、消、一、一、回、に、
一、切、中、計、共、河、泊、所、に、在、事、を、入、情、と、火、と、消、一、一、回、に、
坊、中、河、泊、所、に、大、目、付、之、面、に、公、一、段、之、事、を、公、一、段、
河、泊、所、に、中、計、小、原、子、大、目、付、之、面、に、公、一、段、之、事、
出、事、に、中、計、一、切、之、事、を、集、一、一、回、に、一、切、之、事、
一、切、之、事、を、公、一、段、之、事、と、消、一、一、回、に、
右、条、之、事、を、公、一、段、之、事、と、消、一、一、回、に、
一、切、之、事、を、公、一、段、之、事、と、消、一、一、回、に、

一 同時、河、泊、所、中、計、長、官、
一 条、之、事、

一 同時、河、泊、所、中、計、長、官、

一 条、之、事、

- 一 七度留中ノ民阿部等後ヲ合シ召水凡ノ義之
 招平寺交相東和泉二凡ノ並系右と交右
 後ノ一事付ノ何れも交ト出来ハ一も後合ニ
 別不立私ノ不存多ク付在ノ能指ノ任ノ
 於城巾何處ノ義後有ク城中書ノ書ハ一切
 一 於城中留中ノ民阿部等後ヲ合シ召水凡ノ義之
 共曲漏切トモお後ノ事
- 一 殿中書ノ書ハ一切ノ定至法度トモ海堂可也
 守ノ事
- 一 自然城中火車於今出来ハ殿中書ノ書ハ
 寺後ヲ共書後ノ可任義也

右ノ事ノ一お事也
 交安元年四月十一日
 御運仰

一 固形

- 一 七度留中ノ民阿部等後ヲ合シ召水凡ノ義之
 付
- 一 自然火交トモ交ハ二凡ノ御中ハ船垣差様ノ御并
 四船子紙合ニ在テ斗々大細云ハ松平和泉
 右附ノ一ノ事也トモ其後何人阿部等後トモ
 之ノ外也昔ノ番取古別ノ可也事

一 澄澄日漏 雲割 禁... 任令... 何... 子... 田... 有...
 ... 系... 古... 原... 及... 法... 是... 遠... 者... 有... 之... 不...
 ... 編... 注... 双... 方... 不... 得... 最... 之... 中... 之... 其... 其...
 ... 一... 中... 之... 一... 為... 終... 其... 終... 可... 幸... 於...
 ... 如... 人... 上... 事...
 一 門... 史... 之... 委... 班... 人... 中... 之... 所... 之... 事... 以... 之... 在...
 ... 之... 為... 和... 局... 之... 後... 之... 以... 之... 秋... 之... 在... 中...
 ... 附... 之... 者... 子... 如... 人... 有... 之... 一... 定... 至... 臣... 師... 之... 幸... 也... 矣...
 ... 中... 之... 事...
 一 自... 然... 之... 為... 之... 為... 出... 東... 城... 中... 香... 之... 事... 一... 切... 出... 一...
 ... 之... 事...
 一 右... 乘... 之... 之... 守... 母... 之... 事... 之... 一...

安永元年四月十日

酒井紀伊守
 之... 備... 前... 之... 一...
 筒井内苑
 松平... 之... 一...
 小野... 之... 一...

一目

一 之... 度... 留... 之... 中... 之... 後... 河... 船... 之... 後... 与... 合... 之... 事... 有... 之... 事... 一...
 ... 松... 平... 舟... 波... 之... 松... 平... 周... 防... 之... 大... 事... 申... 之... 後... 之... 事... 一...
 ... 之... 何... 故... 之... 事... 之... 後... 令... 出... 之... 事... 之... 後... 令... 之... 事... 一...

多分子身年為能根之仕事

一 於城下何處に民治有し城申書に事ハ一切出

しつゝ事

一 於城中堅固何故に民治有し事あるに其世

海切ぬきお涙に斗事

一 殿申書に事あるに定法及に逃望にお事

一 殿申自然火事お事あるに殿申書に事あるに

事後と事あるに事あるに

右条にお事あるに事あるに

文安元年四月十一日 所志印

松平丹波守

松平圓防

大書印申

文安二年日先 所成に河内守同

一 借手申所事同知事

条

一 所敵并に喧嘩に海火事お事あるに海井

一 濱波守河内守後事河内對するに松平和泉守

依渡書に事あるに事あるに事あるに事あるに

寄事あるに事あるに所事

一 所泊に城にお事あるに喧嘩に海火事お事あるに

在るに事あるに事あるに事あるに事あるに

事あるに事あるに

- 一 沙泊市に卯所先出火あり向一切ふおむる事
- 一 有るるお侍屋等可住る事
- 一 沙泊に城下して火事の時火消し役人のさす
- 一 獲人さすのさす中身院給同村北東に常系
- 一 下はる事
- 一 西泊にわらふ於て同村北東に常夜に有る事
- 一 於日光山悉火事出来の時所教を不たうと
- 一 宿よりさすお侍 所中
- 一 柳文を松市出さす秋元中さすお中事
- 一 柳文を不介坊舎中さすお来る時お屋
- 一 氏アお備り於市に出向火を消し勿論坊中

- 一 其町屋に有る常入情火を消し事
- 一 坊中町方お大同村に面してお中事
- 一 西橋より卯町中小屋お火事お来る時西
- 一 卯の常一切ふ近集る一町切にお中事
- 一 柳先西泊に系女中死むの女子いる近西に時
- 一 不混乱振に於道中よりあててお

文安二年四月廿日

一 同時所儀叙系に於て
 於沙泊市自燃火事の時 所教系に
 井伊掃部頭
 保科肥後守

酒井廣政守
 阿部忠後守
 阿部對馬守
 松平和泉守
 牧野水渡守
 稻系若狹守
 内友志磨守
 酒井日向守
 増山涼正忠
 内友或染捕
 大久保忠常守
 本多播磨守

大久保丹波守
 安友与十郎
 依久间久七郎
 内友半六郎
 松平内亮卿
 高崎海前守
 久松左兵衛
 通松孫五郎
 内月守

天文二年四月廿日

一同時信守之女中阿部守

- 一 借車の時志所般近系 入河後高々お越飛院
うらまひと出仕奉りし事
- 一 道中女旅宿おつて宿帳小くおのり行
ふ所不有之事
- 一 寺社への熱い思持はしつゝ事
附徳務負一切停止
- 一 古糸くすおき共色くお遺書に族於有之其料
く順重しとくくひ急度くお付し

安女二年 四月

一 同時所觸之是書

- 一 乃申之勿海日光の道途中 使書苑御之

御機嫌の故に云致無用并道中何事概
候は流守不道に使云云云何の自見思
云致無用事

- 一 口示の上又云所傳代元 還所の後
一 日光の各代云て所書真就云云又
以後候云云云事云云

四月十二日

武家殿制録卷八

目錄

一 下之沙書城沙系同之部上

一 伏見城沙系同

一 大坂沙定書元沙系同

一 同

一 同 御中系同

一 同 御系同

一 同 御中系同

一 同 沙書元沙系同

一 同 御中系同

長八 年七月十七日

寛永三年七月廿日

兼應三年八月廿日

同日

年号不明唐辛申

右月

右月

右月

右に記す如き事あり

慶長八年七月廿七

青山島書所

安友對馬守

古井大炊頭

酒井雅乐頭

井伊掃部頭

渡辺山城守

一 大坂城所定書札所系目

定

一 自然の時二ノ九月一切出召あり

一 雲符を以て大坂在書二ノ九月一切入

一 事

一 右記す如き事あり

寛永三年七月廿七

河野備中守

高木左衛門

稲垣折清

一目

定

一 自然の時あり時之にお戻す之万事を為能候

一 事あり之三人は勿論之大事以加事

常事一切撤却不之也事

一 雲分等々大坂在番者更卯在丸二九一切不之入事

一 手巾道摺信紙之抱書事

右邊におおる舟首より見れば知州より
兼通二年八月廿日

内夜守力より

保科源三より

安部持津より

一同沙中知事

定

一 大坂所城中万事之付斗兼憑り杉原首

之と市出之知事之重保之も物来之信

御禮入之りも重保之と兼憑之り事

一 陣之太極津母後集入心力心在信之云

縁由之りお出めり中合之り重保之り

家中之り来た之り信之り摺之り信紙之り

之り又之りお出之り事

附守力家中之り來自宛在番中縁之り

合之り可之り同前事

一 御城弟之り入之り信之り重保之り

万俵之り方之り信之り重保之り改之り

一 御城弟之り信之り重保之り改之り

も同前より割渡村より七口を以て一ヶ所と然るは
も常々取扱ひを以て振舞ひ

一 所法地と業を以て金二千石に経年所換の業
は方々の合算より一万石と追増する業減少の時
不依何何之油以て合算す事

一 町中地と子穿鑿を不審放り不在の根より
中身之事

一 折戻り元万事は金と成り有るは丹後と松平
軍人心可中身と和泉國の川去地を以て中身

一 於西國節の節と成り来り中身と合算
不苦事と云ふこと中身と成り南有る節の
不及地と云ふは板倉周防と永井

信濃と近江は高きと通右ありと連判す事
名は信濃事

一 西國節舟所用の時高きはたわて是又高
仰か取前より周防と信濃と近江と中身
之を以て之根に近江沙汰近江不苦時之根
上之事

一 所法地と業を以て何方にも急し閉口を以て宛
たわては所意より周防と信濃と近江と
是より追増すも不苦時の其旨と云ふこと
上之事

一 不苦の時事と仰檢使と成り宛有る時と
亦周防と信濃と近江と中身事

右に記す所を志し仍概述七件

兼應三年八月廿五日

伊豆守

伊豆守

雅樂政

内蔵常力後

保科源五左衛門

一同御書目

定

- 一 自然に定有之時之相流之方事守為能概可
中付之并之入之要之勿海至大書政加書之案述
- 一切故印之可也。

一 墨付ありし大坂在事者亦九十九之今事

一 西暦とて撰從成志之抱也。

右案に望之書之は亦自其我事知との

年号月日 御書印

大坂

定中事

一同御中知案

定

- 一 大坂御城中万事付る以年案應事お新語有
之と申す出之 依念又も重報も之を約事
- 一 信沙鷹房より多く多御中へ返書言下中事
- 一 深心忠務御書丹波守集人正と力同心正信と云

一因河下知事

條

一河津由原人つきの河川停止

一河津由原大井道具の事

一河津由原内振舞一切禁止

一河津由原二村に業は所い者以下も

一河津由原の事

年月日

大津中

一河津中知事

定

一河津中知事

一河津中知事

一河津中知事

一河津中知事

一河津中知事

一河津中知事

一河津中知事

一河津中知事

一河津中知事

一河津中知事

青山岡崎
保科源正
石丸石見

武家嚴制錄卷六

目錄

- 一 新之河津城河津目之部下
實永七年二月廿
- 一 二条城河津目
同日
- 一 同河津知事
同日
- 一 後府河津目
同日
- 一 同河津下知事
同日
- 一 同新
實文二年六月十日

一 岡部五郎重定

降

- 一 岡部重定が外人質を以て停止す
- 一 岡部重定が我兵并道長を以て停止す
- 一 岡部重定が内推舞一切禁止し陸軍隊を以て停止す
- 一 岡部重定が二村之業以外者及び部下を以て停止す
- 一 岡部重定が大量停止す

右三書は方志に仍概道長

寛永十七年三月七日

對馬守判
 出陣守判
 俘囚守判

一 駿府城所系目

定

- 一 自然に成有る時其人并書院書院お徳と二万奉
- 一 手為能取す付し其人并編書院書院西
- 一 包と一切城中の事
- 一 運書付無しと駿府在書院との書中丸二九
- 一 一切名不入
- 一 右書とと撰ね成たて宛事

明暦三年五月九日 所定印

松平丹後守との
 丹戸新右衛門との

一 國許中知事

定

一 海府河城中万本以斗第亦於能育之と可
中如し願知又と事諸よてしと約束し一倍磨
免て市に名出りし進意とす事

一 丹後と新臺之而るを流与力同公るはは
昔派定て、我お申す可合とと事儀成し西
京中し去りしとふとと事と急し以能成事
いそ又てお浩事

一 河城米と我と云入りて事付しお定矣救方
石し我と云く事亦し事付しと政事

一 河津池と我と云入りて事付しお定矣救方
石し我と云く事亦し事付しと政事

一 河津池と我と云入りて事付しお定矣救方
石し我と云く事亦し事付しと政事

一 河津池と我と云入りて事付しお定矣救方
石し我と云く事亦し事付しと政事

一 河津池と我と云入りて事付しお定矣救方
石し我と云く事亦し事付しと政事

一 河津池と我と云入りて事付しお定矣救方
石し我と云く事亦し事付しと政事

松平丹後守

伊豆守判
控樂以判

右と書付有也之 依批建岸
明曆二年五月九日 丹後守判

惣て 河城布(出入)事

一 市(官)より 紙使(花御)事 出入(市番)

一 病人(系物)御事 河城布(出入)時(市番)事

一 刑(以)て(名)無(科)科人(無)事(同)前(事)

一 河城布(不)事 紙御(由)事(時)限(別)事

一 河城中(於)て(科)科人(捕)前(事)人(一切)答(事)

一 市(官)より(遠)有(是)方(付)於(又)協(捕)事

一 法(寺)人(賣)買(市)町(屋)事(依)威(人)入(課)

一 市(官)より(成)事(廣)町(行)事(上)町(事)

一 市(官)より(付)於(或)協(捕)事(依)威(人)入(課)

一 右(系)事(お)寄(事)及(沙)法(老)事

寛永十一年六月十二日

板内(係)正(判)

古(但)事(判)

久(大)和(判)

稻(免)法(判)

酒(推)步(判)

松平(元)事(判)

天(下)事(判)

清書院書中

天方之石版

長田之石版

留永孫在石版

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

心

心

心

心

心

心

心

心

